

令和 6 年度 県立水戸飯富特別支援学校 自己評価表

No. 1

目指す学校像	◆朗らかで楽しい学校 ◆穏やかで安心できる学校 ◆和やかで信頼される学校		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>校長がリーダーシップをとり部主事を対象とした研修を行ったり、職員による相互授業参観を行ったりして、組織的な授業改善を図ることができた。</p> <p>育成を目指す3つの柱に基づく目標設定と、3観点による評価について研修を進める必要がある。</p> <p>児童生徒の感染症対策、急病、怪我等に対して教務、部主事、校務分掌部長、学年主任等を中心とした組織的な対応ができた。</p> <p>管理職が日常的に校内を巡視し、危険か所等を把握し、改善を図れたところもあった。</p> <p>管理職による職員の取り組みに対する直接・間接評価とフィードバックを行い、専門性向上を図ることができた。</p> <p>コンプライアンス推進計画を策定し、研修のみでなく、多面的にコンプライアンス遵守を図ることができた。</p> <p>コロナ禍で中止していた校外での活動や、外部人材の活用を積極的に行うことができた。</p> <p>PTA役員と連携して新しい取り組みも実施することができた。</p>	1 子どもの「探究心」を育む授業づくり	①育成を目指す資質・能力(三つの柱)踏まえた個別の指導計画の作成と学習評価 ②展開において児童生徒が「考える」活動の設定と学習の「まとめ」「振り返り」を大切にする授業 ③これまでの実践とICTを組み合わせた効果的な授業 ④授業改善を進めるための校内体制の整備と研修会等の実施	
	2 自立と社会参加に向けた教育活動の充実	①「キャリア・パスポート」の活用と系統的なキャリア教育の推進 ②社会自立を目指し地域や保護者と連携した教育課程の編成と改善 ③地域資源や地域の施設等を活用した職業体験学習、人や社会とつながる学習の実践と充実 ④一人一人の「働く」意欲を高める学習の実践	
	3 健康で安全・安心な学校づくり	①安心して学習や生活ができる教育環境の整備 ②ヒヤリハット事例の蓄積と共有、危機管理体制充実のための各種マニュアルの見直しと改善 ③いじめ・不登校・虐待等への予防的取り組みと組織的対応の充実 ④専門家や保護者と連携した食育・健康教育の推進	
	4 地域連携とセンター的機能の充実	①特別支援教育推進体制充実事業を活用した大洗町教育委員会との連携 ②学校間、学校と地域のつながり、互いの学び合いを大切にした交流及び共同学習の推進 ③電話相談及び来校相談、巡回相談の充実と保護者及び地域関係機関との連携強化 ④本校教育活動の積極的な発信	
	5 働き方改革の推進	①風通しのよい職場作り(互いを認め合う、感謝の気持ち、あいさつ、報告・連絡・相談できる関係性) ②服務規律の遵守とコンプライアンス意識の醸成 ③業務内容の改善(学校行事・校務内容の見直し会議の効率化の推進等) ④時間の使い方への意識改革、勤務時間の適正管理	

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)
学校経営 管理 教育計画	「探究心」を育む授業づくりのための授業改善研修の充実	各部に授業改善チームを設置し、計画訪問、新規採用教員、中堅教諭等の研修での学習指導案作成の機会を生かして計画的に研修を進める。管理職が、各部研修や授業反省会へ参加し、指導助言を行う。	1-① 1-② 1-④		
教職員の 育成及び 指導・監督	教員一人一人の授業力の向上	全教職員と教員評価面談を行い、学習指導についての目標及び方法を共有する。 授業観察シートに基づいて授業観察と指導助言。	2-① 2-④ 5-③		
対外活動	P T A活動、外部団体との交流活動の活性化	P T A運営委員会、各種委員会を活用し、保護者のニーズを把握した上での行事や研修会等、計画の際の助言。 年間指導計画作成時の各部の実態把握と情報提供。	2-② 2-③ 4-① 4-② 4-③		
コンプライ アンス確保	教職員一人一人が、不祥事の発生を自分事として捉えられるようにボトムアップ型研修を実施	学年、部を単位として時間を決めて研修を行う。 研修内容は、実際にあった事例から管理職、部主事等で設定する。 研修の結果については、I C Tを活用し全員で共有する。	3-① 3-② 3-③ 3-④ 5-②		
働き方 改革	教職員の勤務時間外の在校時間月 45 時間以上 0	毎月 15 日に全教職員の在校時間を確認する。在校時間が 20 時間を超える教職員について面談等で話を聞き、改善策を共に考え対応する。	5-① 5-④		
I C T活用	I C Tを活用した授業を全教員が実施	学習に有効なアプリの導入を行う。 教員面談で一人一人の I C Tの活用状況を確認し、授業参観を通して指導助言を行う。	1-③ 4-④		

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない